

## 第 51 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 27 年 2 月 23 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名  
出席委員 7 名  
出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、桑田政美、稲井信也、  
中村保、高谷和彦、須貝昭子  
以上 7 名  
放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)  
大平麻由美 (編成課長)  
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 箕面発!! 防災ラジオドラマ  
2) 審議  
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

今回は、「箕面発・防災ラジオドラマ」をお聴きいただきました。「タッキー816応援団」のみなさんの呼びかけで「防災ラジオドラマ」が、20団体、およそ250人の市民がご参加くださり、完成いたしました。その作品を1月15日から2月10日の平日の間、1作品ずつ放送した中の5作品を聴いていただきました。この取り組みは、タッキー816応援団の今年度の事業で、昨夏にワークショップを行い、参加団体にラジオドラマの作り方を学んでいただき、それを参考にご自分たちのそれぞれの立場での防災の取り組みをテーマに台本を作り、収録をしていただきました。収録はほとんどをタッキーのスタジオで行い、録音、効果音、編集はタッキーでいたしました。1月12日には発表会をみのお市民活動センターで行い、そのときにも各団体のみなさんが参加くださり、作品への思いなどを発表していただいて完成した作品を聴きました。また、3月11日・12日・13日の3日間で東小学校5年生の作品も放送する予定になっています。この取り組みに関して、産経新聞とJ:COMに取り上げられました。弊社としましても、素晴らしい取り組みをしてくださったこと、また、それを放送できることはとても喜ばしいことだと思いき感謝しています。

#### (2) 審議

委員長：ただいま番組の説明がありました。この番組審議会の中で、タッキー816応援団の関係のかたからも声が出まして、始まった取り組みですので非常に喜ばしいことです。それではご意見よろしくお願いします。

委員A：ちょうど今年、タッキーが開局20周年を秋に迎えるということで、今までの蓄積を形にするために、私たちが市民として何ができるかということでは、ずっと積み重ねてきたことが一つここに形になってきたという風に考えてはいます。当初は「できるのか」不安に思っていたが、

こんなにたくさんの団体のかたがそれぞれにラジオドラマ制作に関わっていただいて、最後には東小学校の5年生が全員参加で12作品完成し、またひいては保護者のかたもきっとこの3月には聴いていただけと思うので…まずは聴いていただくというのが大切で、それからつなげていけたら良いと思います。ドラマを仕上げるに当たっては、収録や効果音を入れて、限られた時間の中で完成させるという作業をしていただいたおかげで、自分たちが作った作品が「けっこういけてるやん」とみなさんそういう思いをもたれたと思いますので、一緒にできたというのが良かったと思います。

委員長：そうですね。効果音が入って聴くというのは、幾重にも臨場感が出ますよね。

委員B：内容について、被昇天学院とか、FMドラマティックカンパニーはさすがですし、スタートのナレーションやフォローのナレーションもうまく適切にされてましたし、効果音が入って放送になると、これほど素晴らしい作品になるのかと改めてタッキーのプロの腕前、かなり無理を申し上げたので努力に感謝したいと思っています。今回のラジオドラマについては、2つの効果があると思っています。一つは当初のねらい通り、シナリオづくりから収録から放送ということを通じて全体の防災意識を市民のかたも含めて高めることができた。これが第一点。二つ目は、実は予想してなかったんですが、結果として、シナリオづくりとか収録を含めて、タッキーで収録したということもあり、タッキーの放送に関わる間接的、直接的時間が相当あった。ひとくちに言うと、親近感が非常に高まったということです。これは非常に良かったと思っています。こういった市民の、ある意味自主番組的なものは、これからもう少し増えても良いかなという感想です。マスコミも取り上げてくれて、分かりやすく報道していただいた。この辺も、結果的にタッキーを認識させることができ良かったんじゃないかという風に思っています。

委員C：リスナーとして聴いたときに、素人っぽさというか、たどたどしい中にも取り組んだ背景が浮かぶというか、それがすごく良かったというのと、被昇天学院の生徒さんたちの演技力の素晴らしさはすごいと、スタッフ

全員で一緒に聴いたんですけど「上手い！」という声が上がりました。あとは「構成がおもしろい」とか「年配のかたたちが一生懸命取り組んでしゃべってる」ということが伝わりました。作品を流すときに、タッキーからどんな感じだったかとか、裏話的なものを放送で取り上げてもらうと、さらに深まるのではないかと感じました。

委員D：被昇天学院の作品では日頃の訓練と、リーダーさんがうまくリードしながら地震のときの対応について避難訓練のようすを思い出しながら適切に誘導していってくれてたなという風な思いで聴きました。それと、「アリとキリギリス」では、外出時の心がけとか個人情報、自分の住所や名前、写真というようなことを、アリである有識者から学んでいるということを感じました。それから、まちかどデイハウスさんの作品では、つい最近身近に起きた大雨をテーマに、高齢者が防災のときに最も頼れるのは高齢者や自治会などの他人さんで顔見知りのかただということ、レインボーこども会は、若い人の発想で、伝言ダイヤルについて取り上げてくれたのと、防災グッズの準備をしといた方が良いよねというところ、興味をもって聴かせてもらいました。それと、最後の外国人のかたの作品。「日本はどんな国やねん」というようなことを若干でもご存知のかたがお越しになっていると思いますが、言葉が通じない中で災害が発生したときにどうしたら良いのかという身近な課題として語っていただいたということに共感しました。今回については、防災をテーマに取り組んでいただいたことが良かったと思います。それぞれの立場で防災や災害の行動を想定、想像してみなさんも聴いていただけたんじゃないのかな、と良い方向で聴かせてもらいました。高齢者のグループの作品で、雨のことで、お茶を飲みながら雑談しながらおしゃべりできるような雰囲気です。「あんなときこうだったよね」「遠くに居る子どもより近くの方が良いよね」という…あれはほんとうの話だと思いながら聴かせていただきました。

委員E：もったいないと思いましたね。こういう放送があるのに、箕面市民はどれくらい聴いてくれているんだろうかと。これだけのドラマをいろんな立場から作ってもらっているのに、どれだけ市民に行き渡っているのか。こういうドラマの制作っていうのが、ものすごく市民に与える影響って

いうのは大きいんじゃないかと思いますね。だから、ほんとうにもっと聴取率を上げるような方法を考えていく、タッキーは地域密着型と言ってるがほんとうにそれは正しいのか、そのやり方はほんとうに地域密着になってるのか、その辺を一度考えてもいいんじゃないか。

委員長：ありがとうございます。確かにそうですね。これだけ良い作品ができて、それを市民のみなさんにいかにどのように広く聴いていただけるか、というのは課題。どうやってみなさんに聞いていただくかの工夫をしましたか？

事務局：早く放送日時を確定させ、チラシに盛り込み、情報紙に掲載したり、ラジオでも番組宣伝CMを入れ、早めのお知らせは心がけました。インターネットでも聴けるように、準備を進めています。

委員F：ドラマそのものは、みなさんのシナリオも全部読ませていただいて、できあがった作品も聴かせていただいて、それぞれみなさん自分の立場で考えておつくりになったということで、プロが番組用につくったものではありませんので、そういう面では拙い部分はあったかもしれませんが、プロセスが大事です。また、全体の「タッキーの番組」として見たときに、帯でずっと同じ時間でやっていただいたということで、非常に良かったんじゃないかと思います。11時とその日の夜8時ということで、僕も昼間は出かけていますので、夜の時間に聴いたりしておりました。それと、番組の中で、ドラマの前と後ろに、ちょっと簡単な解説をしていただけていました。これはすごく良かったです。取り組みの中身とか、それと次の日の予告も入っていましたので。そういう意味では、「一回聴いたら明日も聴こう」というような感じで、良かったんじゃないかと思います。また、ドラマづくりに関して、実は結果的にはすごく良い盛り上がりで…。実は、最初は「ドラマづくりしましょう」と言ったときに、「え、難しいよ」とか「できるかなあ」ということで、半々くらいでした。応援団向け、内部向けのワークショップをし、結果的にできあがったものが意外とやったらできちゃうじゃないみたいなですね、そういう流れになって、そこでスタートしたと僕自身は思っています。そして、その後が実は僕がびっくりした。応援団のメンバーが学習能力がすごく

て、一回ワークショップをやったのをほんとうに自分のものにして、どんどん人に広めていかれたということと、メンバーの人脈と実行力がすごい。

「20 団体」とひとくちに言いますが、やったことがない人に「ドラマづくりしましょう」と呼びかけても来るものではない。でも、どんどん参加団体を増やしていかれた。まして、東小学校にも話を持って行って、できたというのは素晴らしい。そういうプロセスというのは非常に重要で、そういうのが少しでも市民に伝われば、もっともっと聴いてみようかとなるんじゃないかという具合に思っています。それとやはり、タッキー816のスタッフが、今の仕事だけでもみなさんひゃーと言ってらっしゃる中で、これだけの団体のもを全部割り振りして、収録もして音も入れて、これ大変だっただろうと思います。それをやっていただいたのも、これも素晴らしい。やればできるんだ、という具合に思っています。スタートから最後まで、応援団自体にも非常に良い実績になって残せたし、タッキーにとっても良かったんじゃないかと思えます。こういうかたちで。今の20団体250人が、もう1桁ゼロが付くとか、そういうようになったらうれしいなと思っています。

委員長：ありがとうございます。私はびっくりしました、これを聴いて。やろうかといった人もすごい。それをなされたという素晴らしさ、これがものすごい。これ団体をどんどん増やして箕面市内の各団体を網羅したら一つの大きな渦になるのではないんじゃないかと思えます。B委員が仰ったように「これに関わった」というのがいちばん効果ありますよね。聴いた、自分も出演した、なんか参加したというのはものすごく効果あると思えます。

委員B：いろんな市民のかたが電話でインタビューとかスタジオに行ったりとか、でもただ参加するだけではそのことが結局聴取者を増やすことになかなかつながないという現実がありました。だから今度はその制作に関わったというのは「自分がつくったものが放送されるから聴いてよ」というのが言えるというのが大きい。今回面白かったのは、乗ってきた多くが、「タッキーで収録ができる」というのが、我々の想像以上に効果があったんですよ。これは、スタジオ使わないといけないというのは

大変だと思うんだけど、やっぱり市民から見ると、放送のところに聞かれるという市民の関心は意外に高い。

事務局：ワークショップを通して、ラジオドラマ作りを経験した各団体のみなさんが、東小に出向いて、ドラマ作りをレクチャーできた。その部分を生かして、広げていけたらと考えています。放送に関しては、集中してキャンペーン的に放送することで効果的な状況があったと思いますし、またみなさんの力を活用させていただいて、次につなげることができたらと考えています。

委員長：それではどうも長時間、ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 27 年 2 月 23 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会